

隣保館だより

編集 下榎隣保館

〒689-4526 日野町下榎 157 番地 1

電話：72-1191 (FAX 兼)

E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp



◆優勝者は次の皆さんです。
 【将棋の部】竹茂幹根さん(江府町)
 【囲碁の部・Aクラス】西村正満さん(下榎)
 【囲碁の部・Bクラス】前川仁三夫さん(江府町)
 【囲碁の部・Cクラス】田辺利一さん(日南町)

「第42回新春囲碁・将棋大会」開催
 1月12日、老人憩の家で、新春恒例の囲碁将棋大会を開きました。
 今年も4人の初参加者を迎え、囲碁・将棋あわせて22人(うち、日南町・江府町から9人、地区外から2人参加)が参加しました。本大会の目的である下榎地区住民と他地域の参加者との交流が図られました。
 今回から、囲碁の部は四段以上をAクラス、二段・三段をBクラス、初段以下をCクラスに分け、熱戦が繰り広げられました。
 なお、各クラスの優勝者には、賞状とトロフィーが贈られました。おめでとございます。

「平成30年度 犯罪被害者等人権学習会」に参加して

人権センター所長 中田 康介

1月21日、倉吉市体育文化会館で開催された学習会に参加しました。学習会では、「犯罪被害者等の人権について考える～子どもたちが被害者にも加害者にもならないために～」と題し、少年犯罪被害者当事者の会代表の武 り子さんが講演を行いました。

武さんは、22年前に当時16歳だった息子を、高校の文化祭の日、他校の生徒に因縁をつけられた上、集団での一方的な暴力で失いました。講演に入る前に、WiLL(犯罪被害でわが子の命を奪われた遺族の追悼集会)の活動内容の紹介と、設立当初からボランティアとして同活動を支えている大学生に感謝の気持ちを述べました。

息子さんを亡くした当時、加害者が「少年法」に守られ、その名前はおろか、どうして亡くなったのかも知ることができなかった武さん。その上、けんかの末の死亡事故らしい扱いで、息子の同級生も加害者に口止めをされていたそうです(自転車で転んで打撲し、救急治療室に担ぎ込まれたが、実際は集団暴行が原因。一命は取り留めたものの、植物状態で12日後に死亡)。

当時は、殺された息子の名誉まで傷つけられたことや、自分の子どもの命を守れなかったことで、武さん夫妻は自暴自棄となり、日常生活でさえ困難な状況に。武さんは、「誰かに相談したい。興味本位でも構わないから、誰かに話したい欲求に駆り立てられた」と振り返ります。そんな武さんに、関心を持った大学生が親身に話を聞いてくれたそうです。その大学生の後押しもあり、同じ思いの親が集まり情報を共有する場として、武さんは「被害者の会」を設立することとなります。

はじめは、「同じ命」でもマスコミの扱いに違いがあることに憤り

を感じていた武さんでしたが、その翌年に起きた「神戸連続児童殺傷事件」からマスコミの対応が変わってきたといいます。この事件後、少年法は4度改正され、被害者への配慮だけでなく、厳罰化や年齢の引き下げも検討され、5回目の改正を迎えています。

武さんは、「一方的な暴力であっても、うわさや偏見がつきまとい、徐々に遺族が声を発せなくなる。少年法に阻まれ刑事事件にならず、親が無力感を感じ家庭崩壊が始まる恐れがある。そんなとき、私は近所の援助で救われた」と、周りに手を差し伸べられる人の存在が必要だと訴えました。

息子さんの事件から3年後の民事裁判で、加害者には弁護士が3人つき減刑を求めてきたといい、武さんは極刑を回避する裁判の仕組みにも警鐘を鳴らしました。さらに、加害者は以前恐喝や暴力などの事件を起こしていたことも分かり、「凶悪事件が起こる前に、地域・警察・学校・行政が連携して見守る必要があった」と、被害者の思いをくみ取った法整備のあり方についても投げかけていました。

最後に、「行政がたらい回しにするのではなく、相談部署を決め、信頼関係を築ける人材(聴き上手)の育成や組織改革が求められる」「普段から`助けて、`と言える地域との関係を築くことが必要。私もいろんな人と関わりを持てたことで、何とか穏便な生活が送れ、今の自分がある」と武さん。自分の家族や大切な人が犯罪に巻き込まれたとき、もう元には戻れないかもしれませんが、周りにそうしたつながりをつくることで、今を生きることができると。胸を張り力強く語る武さんの姿に、大切な何かに気付かされた気がします。

3月の行事予定

- 13日(水) … 健康教室 時間/午前10時～午前11時30分 場所/老人憩の家 講師/高橋伸也さん
 - 16日(土) … 生け花(草月流) 時間/午後1時30分～午後4時 場所/下榎集会所 講師/生田清子さん
 - 27日(水) … よってみよい家 時間/午前10時～午前11時30分 場所/老人憩の家
- どなたでも参加できます。詳しくは、下榎隣保館までお問い合わせください。

農業委員会だより No.73

平成30年を振り返る

日野町農業委員会会長 長住武美

新年、あけましておめでとうございます。

昨年は異常気象のせい、7月の豪雨・台風24号の災害と日野町にも多くの農地災害をもたらしました。特に、水路や頭首工に甚大な被害をもたらしました。農家の皆様には復旧にあたり、大変なご尽力をされたかと思えます。

昨年、農業委員会は先進地視察で、日野町と同じ山間部の島根県美郷町・川本町・奥出雲町を視察いたしました。

美郷町では、耕作放棄地対策・担い手育成を目的に、「一般社団法人ファームサポート美郷」を立ち上げられているところでした。また、獣害対策により駆除したイノシシをジビエ料理などに有効活用しておられました。

川本町ではエゴマ栽培の現場を見ましたが、商品にするまでの手間が非

常にかかることが改めてわかりました。日野町においても作付けされていますが、皆さんもいかがでしょうか？

奥出雲町では「農事組合法人たかた」の取り組みの説明を受けました。県事業の「いきいき集落営農推進事業」を活用し、現在出資金を募り法人化されています。

奥出雲町のブランド米である仁田米はすでに全国に名が知られています。しかし、ここまで知られるようになるまでのPR活動も大変だったと聞いております。我が日野町も立地条件の悪さをたてにして、少ない農地で所得を上げる商品開発を専門分野の企業と共同で取り組む必要があると思えます。

新しい発想は、高齢化していく人々に健康食・薬草と、生産者から製造・商品化・PR活動に至るまで、一貫して取り組んでいく必

要があると思えます。

人口減少による人手不足は、大変顕著なものがあります。これからの農業を農家の皆様と共に盛り上げていきたいと考え

ます。

農業委員会活動について、皆様のご意見、ご協力をお願い申し上げます。今年も、災害がないことをお祈り申し上げます。

小さくても勝てる「日野型農業」を目指して

農地利用最適化推進委員 谷口 勇

農地利用最適化推進委員になつて2年がたちました。日野町の置かれている農業の現状が、県外の市町村などに視察に行くとき我々の先輩が何をされてきたのかわかる気がします。

これからは平井知事の「小さくても勝てる」のように、日野町型の農業の仕組みをつくる必要性を感じています。「高齢化」「担い手不足」などできない理由を並べますが、人は自ら動くことにより、周りが変わることもあります。

この度、島根県の美郷町・川本町・奥出雲町に視察に行きました。それぞれの町に合った仕組みをつくり、実行されていることに感銘を受けました。日野町

の農家にも「専業農家」「兼業農家」「これから起業する農家」などがあります。今ある資源を生かしつつ、「町・水・土地・みどり」を守り、将来に向けた日野町が水田農業の仕組みづくりを考えると、来ていると思えます。

我々の地域の農業は5年後、10年後どうなっているでしょうか？

日野町では、関係各機関と協議をし、皆様の思いを聞きつつ、お互いが助け合いながら継続していきける日野町型「地域プラン」の作成に着手し始めたところです。

※何か農業のご事で相談がありましたら、農業委員会事務局にご相談ください。

農業委員会の改選について (農業委員 / 農地利用最適化推進委員)

農業委員会の農業委員、農地利用最適化推進委員の任期は、平成31年6月18日までです。農業委員会では、任期満了に伴う農業委員、農地利用最適化推進委員の募集を行います。

なお、平成28年より、各委員の選考方法が、従来の選挙から町長任命制に変わりました。詳しくは、改めてお知らせします。

【問合せ先】農業委員会 (電話 72-2103)